**論点**

**①【内容理解】英国・ポーランドの教師教育について、図の空欄にあてはまる事を、本文を読んだうえで考えよう。**

**②【議論】日本の教育において、どのようなことが空欄にあてはまると考えられるか。**

**【論点①】**

Most, if not all, countries would probably now agree that it is a teacher’s role to strive to ensure their pupil’s achievement and well-being.（pp.90-91, 最後の行～最初の行）

今や、すべてではないとしてもほとんどの国は、生徒の達成と幸福を保障しようとすることが教員の役割だということに賛成するだろう。

They may, however, have different strategies for doing this, underpinned by culturally specific philosophies. This will lead to both similarities and differences in teacher education globally.（p.91, l1-3）

それぞれの国はこれ（生徒の達成と幸福）を実現するために、文化的に特定の哲学に裏打ちされた、異なる戦略を持っているかもしれない。このことが世界的に教師教育に共通点と相違点をもたらすだろう。

**英国・ポーランドにおける教師教育の方法と、それを裏打ちしている両国の特徴を本文から読み取ろう！**

**【論点②】**

教育を通じて生徒の達成と幸福を保障しようという方針については、日本もイギリス、ポーランドと同じだと考えた。しかし、そのような教育に転換した社会的背景やそれに伴う教師教育の変化は両国とは異なるだろうと班は考えた。

**そこで、日本の教育において、図の空欄にあてはまることとしてどのようなことが考えられるか、話し合ってみよう！**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 英国 | ポーランド | 日本 |
| 社会的背景 | 虐待死⇒子どもへの関心 | ソヴィエトの伝統からの脱却（ヨーロッパを指標に） | ② |
| 教育 | •児童に合った教育•児童を包括的にサポートする教育⇒生徒の達成と幸福を保障 |
| 教師教育の方法 | ① | ① | ② |
| それを裏打ちしている各国の特徴 | ① | ① | ② |